

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU-R部会

地上業務委員会(第1回) 議事概要 (案)

1 開催日時

平成20年1月16日(水)午前10時～12時50分

2 場所

三田共用会議所 4階 第4特別会議室

3 出席者(敬称略、順不同)

[構成員]

高畑 文雄(主査)、石出 明、伊藤 好、遠藤 信博、小川 博世、小坂 克彦、齊藤 利生、
阪田 史朗、佐藤 明雄、佐藤 孝平、清水 一巳、正源 和義、鈴鹿 和男、中村 勝英、
丹羽一夫、橋本 明、室田 和昭、弓削 哲也、渡邊 文夫

[関係者]

島貫 (岩淵委員代理)、井口 (加藤委員代理)、松山 (佐野委員代理)、古川 (徳広委員
代理)、橋 (中島委員代理)
(説明者)吉野、藤井、飯草、檜木、大本、古川

[事務局]

森移動通信企画官、中北課長補佐、住吉係長、成澤官(以上、移動通信課)
梶原課長補佐、片山係長(以上、基幹通信課)
広瀬係長、岡田官(以上、衛星移動通信課)

4 議事

- (1) 委員会の運営及びワーキンググループの設置について
- (2) ITU-R SG8・SG9関連会合の報告について
- (3) 無線通信総会(RA-07)、世界無線通信会議(WRC-07)の報告について(SG5関連)
- (4) ITU-R SG5関連会合への対処について
- (5) その他

5 議事概要

議事に先立ち、平成20年1月7日の情報通信審議会ITU-R部会において地上業務委員会が設置されたことが確認され、高畑主査の挨拶のあと、構成員が紹介された。

- (1) 委員会の運営及びワーキンググループの設置について

【資料地1-1】

事務局より地上業務委員会の運営及びWGの設置について説明があった。

(2) ITU-R SG8・SG9関連会合の報告について

【資料地1-2】

事務局から2007年6月に開催されたWP8A第20回会合、WP8B第20回会合、SG8会合、2007年8月に開催されたWP8F特別会合、2007年5月に開催されたSG9関連会合の結果について報告された。また、小坂委員よりSG8会合においてWP議長の改選が行われ、長年WP8Dの議長としてご尽力してこられた水池健氏が退任されたことが紹介され、謝意が表された。

(3) 無線通信総会(RA-07)、世界無線通信会議(WRC-07)の報告について(SG5関連)

【資料地1-3】

事務局よりRA-07及びWRC-07のSG5関連の結果について報告された。

(4) ITU-R SG5関連会合への対処について

① 日本寄与文書(案)について

事務局から、WP5D向けに5件、WP5A向けに3件、WP5C向けに3件、WP5B向けに1件計12件の日本寄与文書(案)があり、IMTワーキンググループ、陸上移動ワーキンググループ、固定ワーキンググループ及び航空海上移動ワーキンググループで審議・承認されたものである旨説明が行われたあと、各寄与文書について審議が行われた。

また、SG5への提出を検討している寄与文書の概要について説明が行われた。

【資料地1-5-1-1～1-5-1-3】

吉野氏から、IMT-Advancedの無線インタフェース技術を募集するサーキュラーレターの修正提案について説明が行われ、以下の質疑応答の後、承認された。

【質疑応答】

小坂委員：資料地1-5-1-3はマーケットやエコノミーを扱っているが、これらはITUで扱うものではない旨のコメントが出る可能性があるため、注意が必要。

吉野氏：エコノミーについては発展途上国の要望で入れているので問題ないとする。マーケットは他に表現がないため使用したが、誤解を招かないよう対処したい。

橋本委員：high level principleという言葉が出てくるが、high levelというのはWPでは使用されない言葉であるとする。Basic等で置き換えてはどうか。

また、2010年までの要求値に関する記載があるが、2010年はもうすぐなので、2010～2015年くらいのスパンで考えるべき。

吉野氏：WP8Fではこれまでも「high level」を使用しているため、混乱を招かないよう今

回はこの用語で提出したい。

また、2010については、2010 on wordという用語で2010-2015を示している。
WP8Fでよく使用される用語。

佐藤(孝)委員: high level については、基本概念の決議にも使用されている。

高畑主査: WP8Fに新たに参加する方にも、説明できるようにすると良い。

小坂委員: WP8FはITUと離れた場所で開催されることもあり、ITUと違う用語を作る傾向があり、ITUの場で議論を呼ぶこともあるので、ご留意いただきたい。

橋本委員: 議論に寄与することが目的なので、説明いただいた内容で了解する。

橋本委員: 1-5-1-1は、文書をダウンロードすると7ページまでが出力されるのか。残りのファイルはaddendum扱いになるという理解でよいか。

吉野氏: 出力されるのは7ページまで。Attachmentの1-10は電子ファイルから得られる。

橋本委員: Attachmentも公式な寄与文書なのであれば、Addendumとした方が良い。このように添付すると別文書と見なされると思うが、一つの文書として扱えるのか。

吉野氏: Attachmentまで公式な文書。この形式で一つの文書として扱っているケースが他にもあるので、問題ないと考える。

橋本委員: 1-5-1-2について、寄与文書のタイトルには「minimum」が入っているが、「minimum」についての記述は4章にだけあるが、日本の寄与文書は4章の改訂提案という意味か。

吉野氏: 然り。

【資料地1-5-1-4～1-5-1-5】

藤井氏から、IMT-Advancedの伝搬モデルに関する寄与文書について説明が行われ、以下の質疑応答の後、承認された。

【質疑応答】

高畑主査: 2つの文書はどういう関係か。

藤井氏: 干渉評価のためにシナリオを設定、シナリオ毎にチャンネルモデルが作成される。シナリオの削減提案が1-5-1-4、シナリオの削減提案に伴うチャンネルの削減と統合提案が1-5-1-5。

佐藤(明)委員: SG3では、Q.1518について、WP8Fとやりとりしてきた。本件もSG3として非常に興味あるところ。ブロードバンドの伝搬モデル作成に寄与するものと思う。WP3Kにリエゾンで情報を入れていただければありがたい。

橋本委員: 同じ作業文書の同じsectionが両方の寄与文書に出てくるが問題ないか。

藤井氏: シナリオとチャンネルを明確に分けて議論するために文書を分けた。議論の中で統合されると思う。

佐藤(孝)委員:シナリオとチャンネルモデルの混同が、問題を複雑にしているので、分けた方がよいという判断で寄書を分けた。

橋本委員:片方の文書で現状維持ならもう一方の文書を参照しておくが良い。同じテキストに対し、片方の文書が現状維持でもう一方が改訂だとわかりづらい。

藤井氏: 混乱しないよう議論の際に気をつけたい。

【資料地1-5-2-1～1-5-2-2】

飯草氏から、ミリ波を用いたITS無線通信に関する寄与文書について説明が行われ、以下の質疑応答の後、承認された。

【質疑応答】

橋本委員: 欧州の提案を期待して完成を目指すとのことだが、英文の記載が無く、Annexの表も削除されている。欧州の提案を期待する旨の一文を入れてはどうか。

高畑主査: 現状案は欧州の提案を拒否するように見える。

事務局: 新しいAnnex1がtable1を包含しており、欧州の内容も読めるので、この値に対して欧州の意見を待つ形式にしている。

橋本委員: この寄与文書で目的を達するなら、それでも良い。

高畑主査: 現地で、寄与を期待する旨補足してはどうか。

飯草氏: 現地で呼びかけることとさせていただく。

【資料地1-5-3】

檜木氏から、コグニティブ無線に関する寄与文書について説明が行われ、以下の質疑応答の後、承認された。

【質疑応答】

小坂委員: 陸上移動WGで、WRC-11の議題に関連するので、introductionにWP1Bにattentionする記載をした方がよい旨の提案があったと思うが、記載されていない。

檜木氏: Annex1に主旨は記載した。問題提起になると思う。

小坂委員: 了解。

【資料地1-5-3-1～1-5-3-2】

橋本委員からSG再編に関する寄与文書について説明があり、特段の質疑なく承認された。

【資料地1-5-3-3】

大本氏から勧告ITU-R F.1336改訂提案について説明があり、エディトリアルな修正の後、承認された。

【資料地1-5-4-1】

古川氏からHF帯海洋レーダーに関する寄与文書について説明があり、以下の質疑応答の後、指摘どおり修正することとして承認された。

【質疑応答】

小坂委員: figure1 は、実験結果か。

古川氏: 測定結果。

小坂委員: ではそのように記載した方がよい。Figure2はレーダーの位置か、coverageか。

古川氏: coverageに近いが、そのものではない。

小坂委員: それについても、figureのタイトルに記載すべき。

高畑主査: 本文にも説明が無いようなので、工夫して記載していただきたい。

古川氏: 口頭で説明したことを記述する。

【資料地1-5-5-1、参考資料4】

SG5のWPの構成について、参考資料4をもとに橋本委員から説明があった。事務局から、資料1-5-5-1はWP構成についての日本の意見を表明する寄与文書案だが、提出するか否かを含め検討中である旨の説明があり、委員からは以下の意見があった。日本の立場に反する意見が多い場合、寄与文書を提出することとして事務局に一任することが承認された。

【意見】

小坂委員: WP5Aと5Dの開催日程を近づける提案があったが、WP5Dに参加できないため、統合したい、という意図があるのではないかと推測する。これまでWP8Fの2回は海外、1回はジュネーブで開催されていたが、これが逆にできれば良い。

橋本委員: 他のWPとの合同開催は年1回であり、ITUの活動を広める意味でも、一般的に外部開催は歓迎されている。

小坂委員: ITU事務局が外部開催を歓迎しているのは了知。外部開催はWP8Fに特に顕著。本当に途上国のためになるのかという問題もある。

佐藤(孝)委員: 現状ジュネーブ開催は1回期に1回程度。1年に1回ジュネーブで開催されるようになれば、大分良いのではないか。

また、WP8Fカメルーン会合の際は、アフリカから多く参加があり、WRC前でもあったため他にも多くの国から参加していた。外部開催自体は悪くないと考える。

高畑主査: WP構成で特に日本として重点を置いているのは、どの部分か。

事務局: 旧WP8Fを単独WPとする点。

橋本委員: 先程説明した議長提案を今週入力する。その後、各国からの提案状況を見て日本寄与文書を提出するかどうか判断するというところで良いのではないか。

② ITU-R SG5関連会合への対処方針(案)について

【資料地1-6】

事務局からSG5関連会合への対処について説明が行われ、特段の質疑なく承認された。

(5) その他

事務局から参考資料について説明があった。

また、外国寄与文書の対処については各WGでの対処方針を元に対処し、特に審議が必要と思われるものについては、地上業務委員会でもメールで審議をお願いする旨事務局から説明が行われた。

以上

配付資料

- 資料地1-1 地上業務委員会の運営及びワーキンググループの設置について(案)
- 資料地1-2 ITU-R SG8・SG9 関連会合の報告について
- 資料地1-3 無線通信総会(RA-07)の結果
- 資料地1-4 世界無線通信会議(WRC-07)の結果
- 資料地1-5 ITU-R SG5関連会合への日本寄与文書(案)
- 資料地1-6 ITU-R SG5関連会合への対処方針(案)

- 参考資料1 移動業務委員会(第17回)議事概要
- 参考資料2 固定業務委員会(第20回)議事概要
- 参考資料3 ITU-R SG5に割り振られている課題について
- 参考資料4 Study Group 5の研究体制について
- 参考資料5 ITU-R SG5 WP5Aへのセクタメンバからの寄書について
- 参考資料6 地上業務委員会関連ワーキンググループ審議報告
- 参考資料7 ITU-R SG5関連会合日本代表団一覧
- 参考資料8 今後のITU-R SG5関係会合スケジュール
- 参考資料9 地上業務委員会構成員名簿(平成20年1月現在)